

令和6年度事務事業総括表

基本目標	「夢を育てる教育」おおたまに学び、世界とつながる人間の育成 ～ みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育 ～
施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ○幼・小・中が一貫した教育の推進響育 ○地域ぐるみの学びのむらづくり共育 ○子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツの村づくり強育 ○ふるさと文化の振興郷育
年度施策	<ul style="list-style-type: none"> ○幼・小・中が一貫した教育の推進響育 <ul style="list-style-type: none"> ①幼・小・中一貫的教育推進事業 ②幼稚園教育の充実 ③学力向上推進事業 ④ICT活用推進事業 ⑤就学支援事業 ⑥学校給食費補助事業 ⑦スクールバス運行管理事業 ○地域ぐるみの学びのむらづくり共育 <ul style="list-style-type: none"> ①コミュニティ・スクール推進事業 ②地域学校協働活動事業(家庭教育支援事業) ③読書活動の推進事業 ○子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり強育 <ul style="list-style-type: none"> ①社会体育関係団体支援事業 ②社会体育関係団体支援事業(地域学校協働活動・部活動地域展開関連) ○ふるさと文化の振興郷育 <ul style="list-style-type: none"> ①文化財保護事業 ②あだたらふるさとホール運営事業
評価	<p>《評価する点》</p> <p>○上記13項目の事業についての点検評価の結果は、「達成状況」では「A:十分達成」が7項目、「B:概ね達成」が5項目、「C:やや不十分」が1項目であった。「年度末の展開度」では「A:大きく展開」が6項目、「B:概ね展開」が6項目、「C:一部だけに展開」は1項目であった。方向性については、「継続」が9項目、「拡充・発展」が4項目であった。</p> <p>○本年度は、昨年同様、通常の事業展開を図っていたが、学校行事との調整等により、あだたら健康マラソン大会は日程を変更して開催するなど、関係部署とも連携・協力しながら事業の執行に努めた。評価については「A:十分達成」、「A:大きく展開」、「B:概ね達成」については昨年同様で、「B:概ね展開」が1項目減少し、「C:一部だけに展開」が1項目の増となったが、一定の成果は果たされたものと考えられる。</p> <p>○今年度は各学校のオープンスクールによる授業研究会に加え、「QU研修会」「通常学級にいる特別に支援が必要な幼児・児童・生徒への支援についての研修会」「デジタル・シティズンシップ研修会」「外国語教育研修会」「着任教職員研修会」等、おおたま学園の課題解決に向けた研修が積極的に行われた。</p> <p>○午前中の実施のため参加者の少なかった保育研究会にも、今年度は小・中学校の教員が参加し、幼・小・中の一貫的教育の充実に向け研修を深めることができた。</p> <p>○幼小接続の第3期に向け、国語科を中心とした架け橋プログラム作成を行った。互いの活動を振り返る機会ともなり、接続の在り方を見つめる機会となった。</p> <p>○各校、学力向上グランドデザインを作成し、RPDCAサイクルを取り入れながら日々授業研究、検証、改善に取り組んでいた。また、おおたま学園の保育授業・学習習慣連携推進委員会を中心に、家庭学習からの学力向上へのアプローチをしたり、読書活動推進委員会を中心に読書における読解力の向上に努めたりするなど各委員会がそれぞれに学力向上の基盤である学級生活や家庭生活から改善していこうとする様子が見られた。</p> <p>○DC教育授業を小・中学校の全てのクラスで実践することができたことと、DC教育の講演会をCS全体会で開催できたことは大きな前進である。</p> <p>●非認知能力の育成に向け、主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分体験する園環境の充実を図る。</p> <p>●全国学力学習状況調査やふくしま学力調査から授業で取り組んだことが結果となって反映されていない状況がある。主体的な学習になるために、教師の発語を少なくし、子どもたち自身が対話を通して学び合う授業づくりに努めていく必要がある。また、基礎学力の定着に課題があり、授業において学習内容を確認し、定着を図る時間が必要である。その定着の時間をAIドリルなどを活用し、その子にあった学力で進められるように授業改善を求めていく。</p> <p>●DC教育については、先生方一人一人が自ら取り組んでいただけるように配慮したい。</p>

<p>評 価</p>	<p>《評価する点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 準要保護就学援助事業の周知について、学校事務担当者と方法や時期の再確認を行うことにより、より適切に情報提供ができた ○ 3歳児のスクールバス利用に関して幼稚園、運転手等と綿密に連携し、円滑に事務を進めることができた。 ○ 今年度も3回のオープンスクールが行われ、各園学校に特化した熟議が行われた。今年も中学生がCS委員会に参加し、中学生ならではの柔軟な発想で意見を交わすことができた。さらに、CS委員がこのオープンスクールに参加することによって学校を知る良い機会となり、学校評価委員としての役割も果たした。 ○ 今年度は、新たに健康福祉課(子育てサポートセンター事業)と共催しながらの「親子ふれあい遊び」を開催し、親子一緒に動物園の動物になりきって、親子のふれあいの時間を提供できた。企画から当日の運営までコーディネーターを中心にチーム員が考え準備する等、チーム員同士のつながりも強化され、次年度も引き続き継続していきたい事業でもある。 ○ 今年度も、学校司書と連携して子ども司書養成講座を実施した。昨年度反省でもあった、継続した活動の実施のため、おはなし会に挑戦するというテーマをもって取り組む事ができた。子ども司書養成講座を受講した後に、おはなし会に参加し活躍できたことが大きな自信になった。 ○ 村内関係団体へのアンケートを実施し現場レベルで感じている課題を知ることができ、中学校長との共有、協議を通して、共通認識を図ることができた。 ○ 小名倉山の「石造大日如来坐像」及び「石造龍樹菩薩坐像」を指定し周知することで、住民の郷土意識を醸成することができた。 ○ 年中行事再現・おはなし会では、おはなしボランティアゆめこじメンバーの協力のもと読みかせや工作の方法を工夫できた。スタンプカードを始めたことが、参加者数の増加につながりつつある。 ● CS委員会の活動状況が保護者や地域の住民にあまり知られていない部分がある。CS委員会の便りや地域学校協働本部便りをホームページ等を通して活動状況を示しているが、おおたまふれあいフェスタなどの保護者ボランティアへの参加が少なかった。来年度もオープンスクールの各園学校に特化した熟議に保護者の参加を促し、家庭教育力の向上に努める。 ● 家庭教育支援活動をはじめ3年が経過し、少しずつではあるが、保護者への認知度は上がっている。しかし、保育所に入所していない家庭をどのように今後支援していくかが課題であり、健康福祉課の協力をいただきながら、乳幼児健診や子育てサポートセンター事業の案内時の通知と一緒に「たまちゃんネル」を同封するなど、広く子育て世帯への周知徹底を図っていききたい。 ● おはなしボランティア研修会で、絵本の読み聞かせに加えて、おはなし会で実践できる手遊びの講習を受けてみたいという意見があがっている。次年度は、それらの意見を広く吸い上げ研修会の開催ができるようにしていきたい。また、他市町村のイベントの参加も視野に入れていきたい。 ● 新型コロナウイルス感染症により、数年間各種大会やスポーツ活動等が中止、縮小になっていたことで、住民のスポーツ離れが著しく、その人たちのスポーツ活動への参画を推進していくため、スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブと協力しあい、スポーツ人口が増加する事業展開をする。 ● 馬場ザクラ枯死を教訓に、後継樹の育成状況・環境の注視、さらに樹木医等との連携を図ってきたい。
------------	--